

広報

九州



国民の森林・国有林

令和5年2月10日

(2023年)

No.1812

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市西区京町本丁2-7

IP電話:050-3160-6600(代表)

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>



表彰式に出席者された皆さん

森林の多面的な役割や私たちの生活との関わりなどについて自由に表現した「森林のアートギャラリー」を九州森林管理局と(一財)日本森林業振興会熊本支部との共催により実施しました。

地球温暖化などの様々な環境問題に注目が集まる中、今年度のテーマ「みどりの恩恵」を基に、熊本市内の中学生に森林の役割や重要性を絵で表現していただきました。

13校から32作品の応募があり、熊本教育センターのご協力のもと最優秀賞1点、優秀賞5点を選考しました。

令和4年12月17日には表彰式を実施し、制作にあたった各校の生徒、教諭及び保護者の皆様あわせて66名が出席しました。

それぞれの作品に対する「思い」を生徒に発表していただき、終了後には各作品の前で写真撮影を行いました。

展示されている作品は道行く人たちの心を癒し、地域の方々からも好評をいただいております。自然や森林について考えてもらうことを期待し、今後2年間展示します。

なお、今回の受賞作品は次のとおりです。
(担当＝技術普及課)

「山の日」記念 第18回森林の^{もり}アートギャラリー



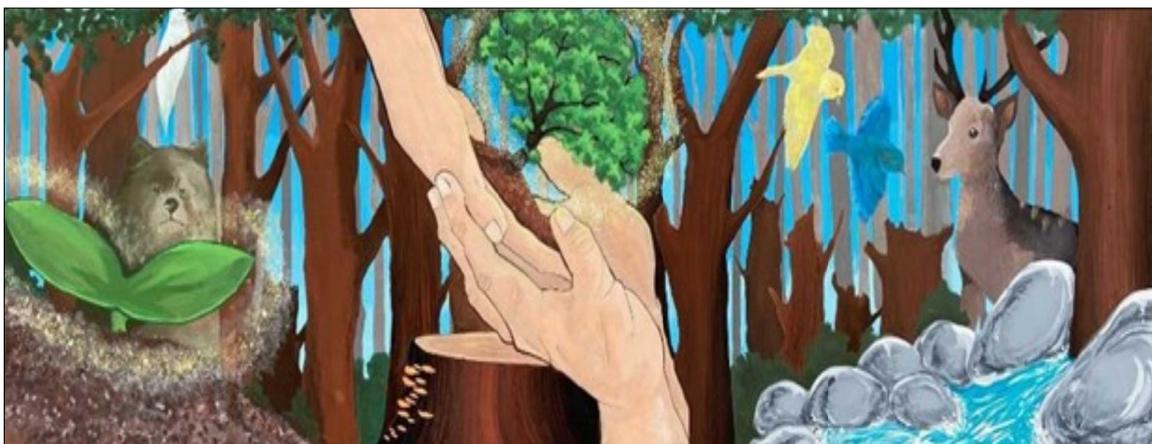
【最優秀賞】
「未来へ繋ぐ多様な自然」
熊本大学教育学部附属中学校
美術部
2年生



【優秀賞】
「未来の、その先もずっと」
熊本市立 帯山中学校
美術部 3年生



【優秀賞】
「自然との共生」
熊本市立 西山中学校
美術同好会 1・2年生



【優秀賞】
「守り受け継ぐ」
熊本市立 託麻中学校
美術部 2年生



【優秀賞】
「蝶の一休み」
熊本市立 長嶺中学校
美術部 2年生

【優秀賞】
「深い青の森と蛍の輝き」
熊本市立 武蔵中学校
美術部 1・2年生



令和4年度第3回国有林材供給調整検討委員会を開催

令和4年12月19日、本年度第3回目「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

各委員がそれぞれの専門分野から意見を述べあい、「現時点での供給調整は必要ないが、引き続き、地域ごとの需給状況を踏まえて慎重に対応する必要がある」と考えられることから、民有林の出材状況、原木価格の動向、工場等の原木仕入れ状況、木材製品の価格、輸入材の動向などを注視しつつ需給バランスを見極めながら、計画的な供給に努めるべきである」との検討結果となりました。

各委員からの主な意見は次のとおりです。

●全国的にも9月の合板市況はものすごく低調で、減産を行ったが中々回復せず在庫が増えた。流通も回復してきただけで11月にやっと調整が落ち着き徐々にではあるが工場の稼働も上がってきている。合板業界では今後販売量に合わせた生産量というところで生産調整を行っていくつもりであるが、概ね今の状況で落ち着

いていくのではと考えている。現在、原木の量というものが多いため感じられず、不足感もなく居心地の良い状況ではあるが、雪で突然山に入れなくなるといふことになれば瞬く間に原材料が足りなくなるといふこともあり得るので、国有林の供給については現状を維持していただきたい。



委員の皆さんと挨拶される矢野局長

●燃料含めた原木の奪い合いということで、製紙関係の原料が針葉樹・広葉樹とも全く足りておらず、かなり逼迫した状況となっている。また九州のチップ工場各社の原料の少ない中での奪い合いに加えて、発電所についてもどんどん増えており今の状況が悪化する恐れが出ている。

供給調整については、計画的に進めていただき、出来ればC材の方の供給をなんとか増やしていただければと思っている。

●合板業界と比べると、残念ながら素材供給側も製材側も供給調整という点ではまだまだ力足らずという感じがあり、今後考えていかなければならない点である。

本当の意味での安定供給はただ作



遠藤委員長の挨拶

れば良いというのではなく、供給調整にもしっかりと力を付けていかなければならないと考えている。

● 今の状況は、コロナ前に比べるとまだまだ危惧するような状況ではなく、国有林の供給状況については現状どおり行っていたら、特に調整の必要は無いと思っている。

● 流通業者もウッドショック以降は、輸入材の先物での市況や輸入ロットの関係等かなり痛い目にあっている。国産材への転換を促すためには製材業者としても、価格はもちろん大切な要因だが、安定供給や品質といった面をしっかりと流業者などにアピールしていき販売していくという風に考え方を考える時期に来ていると思う。

● 国有林の供給調整という点では、バイオマス関係でも原料が不足しているように、今後も安定供給をお願いしたい。

● スギに関しては、九州では合板工場、製材工場、輸出など需要が多くウッドショック以降、生産調整等で価格を維持しようという形が見受けられるので安定はしている。ヒノキは丸太価格が一気に値下がりし暴落に近い落ち方をして、ここにきてあまりの安値から生産量が減り丸太が足りなくなると値上がりし転じるなど相場が荒れている状況。

● 国有林の生産調整という点では雪による出材への影響も考えられるため、今後も計画的かつ安定的な出材をお願いしたいと考えている。

● 下落したとはいえ依然高値で推移している状況で、思ったほど出材量が増えてこないというのは、基本的に労働環境の問題で、日曜祭日は休業者が多くなってきたことに加えて気象条件によって休む日も多くなり人材は欲しいが雇用するに当たっての条件が厳しくなってきたという点にある。

● 国有林からの供給については、基本的には現状維持でお願いしたい。

● 市売りでは昨年のウッドショックから一変した状況にあり、昨年は相場が良くて市場の集荷は楽であったが、今年は逆転した傾向にあると心配している。

● 地元の製材工場の買い気が非常に弱く、また、中国向けの輸出をされる商社も中々手を出してくれない状況にあり、年明けの相場がどうなるのか心配している。

● 国有林材については、今後とも相場を注視していただきながら、これまでどおりの供給をお願いしたい。

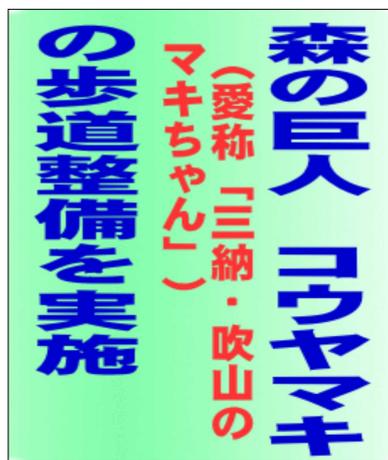
● 年間10万坪を加工する工場とそれ以外の工場との差が大きくなってきており年間10万坪を加工する工場はパワービルダーをはじめローコストのお客様を相手にしている中で、取ったり取られたり競争で、樹種や等級の変更などにより価格をコントロールしながら受注を取っている状況。

● 一方、中小規模のプレカット工場は、地場の工務店やビルダーに密着していることで、注文住宅などの仕事が減ってきており、非常に苦戦している。

● ここまでの委員会の意見から、C材等の状況を聞くと安定供給でどの話もあるので、私としては現状維持から少し絞り気味にお願いしたい。

● ※本検討委員会の詳細は、九州森林管理局HPのキーワードの木材の供給情報の「九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果等について」からご覧になれます。

（担当：地域木材情報分析官）



【西都児湯森林管理署】
令和4年12月6日、西都市吹山国有林内において、コウヤマキ保護協議会会員による歩道整備を行いました。

● この取組は、林野庁の「森の巨人たち百選」に選定されているコウヤマキ（推定樹齢約350年・樹高19m・幹周り3.96m）までの道のりを登山者が安全に森林浴や植物観察を楽しみながら通行できるように、例年実施しているところです。

● 当日は天候に恵まれたものの、冷え込みが厳しい中、保護協議会（西都市、児湯広域森林組合、企業）か



参加者に作業内容を説明

● 24名が参加しました。

● 冒頭、富永雄二署長が「三納・吹山のマキちゃんの愛称で市民に親しまれているコウヤマキを後世に残していくため、協議会の継続的なご協力をお願いしたい」と挨拶しました。

● その後、渡辺浩司森林技術指導官より作業内容の説明を行った後、各班に分かれて歩道に積もった枯葉の片付けや危険表示の設置など約1時間30分ほど汗を流しました。

● 作業を終え、整備された歩道を入林者が安全にコウヤマキへ辿り着き、森の巨人を見上げている姿に思いを馳せ、次年度以降も継続して取り組むことを会員で確認して閉会しました。

ニッセイ熊本の森で育樹ボランティア

【熊本森林管理署】

令和4年12月11日、熊本市小萩国有林において、公益財団法人ニッセイ緑の財団（理事長 清水一朗）主催による「『ニッセイ未来を育む森づくり』ニッセイ熊本の森育樹活動」が開催され、当署職員5名を含む95名が育樹体験活動を行いました。



歩道整備の状況



除伐作業中の参加者

女性や子供を含む参加者の皆さんは、高瀬総括の注意事項等について指導を受けた後、準備された手鋸と小型の造鎌を使用して、10班に振り分けられた当署職員らの付き添いの下で、それぞれの受持ち区域のヒノキ造林木のつる切りやクヌギ区域の除伐作業に約一時間従事し、秋晴れの中で心地よい汗を流しました。



つる切り作業に頑張るお子さん

はじめに、主催者を代表し山田徹太郎日本生命熊本支社長から、「この取組は1992年から全国204箇所に138万本の苗木を植栽し、そのうち熊本県内の6箇所においても2014年から約800名が参加して育樹活動を継続しているものです。本日も楽しく育樹活動を行って下さい」と挨拶がありました。来賓挨拶では、井上智晴熊本森林管理署長は、「国有林野事業への理解と協力に対するお礼と当財団が取り組む森林を愛する人づくり事業等に対する敬意を評しながら、一緑豊かな森林と森林を愛する子供達を育成して未来へ引き継いで頂くことを期待します」と挨拶しました。

この取組は、平成21年3月に分収造林契約を締結した当該法人の森において、当財団が育樹活動として例年実施しているものです。

はじめに、主催者を代表し山田徹太郎日本生命熊本支社長から、「この取組は1992年から全国204箇所に138万本の苗木を植栽し、そのうち熊本県内の6箇所においても2014年から約800名が参加して育樹活動を継続しているものです。本日も楽しく育樹活動を行って下さい」と挨拶がありました。来賓挨拶では、井上智晴熊本森林管理署長は、「国有林野事業への理解と協力に対するお礼と当財団が取り組む森林を愛する人づくり事業等に対する敬意を評しながら、一緑豊かな森林と森林を愛する子供達を育成して未来へ引き継いで頂くことを期待します」と挨拶しました。



ボランティアを受け入れるスタッフの皆さん

虹の松原 クリーン大作戦

【佐賀森林管理署】

令和5年1月22日、虹の松原国有林内（唐津市）において、NPO法人唐津環境防災推進機構KANNEの呼び掛けによる「Keep Pine Project」虹の松原クリーン大作戦」が実施され、地元企業、唐津市内の唐津南高校、唐



松葉かきをするボランティアの皆さん

津西高校、中学校、唐津市役所、一般ボランティア等約190名が参加して松葉かきが行われました。佐賀森林管理署からは、植薄和彦地域林政調整官、志戸祐二森林官（家族で参加）も一般参加として汗を流しました。

当日は、寒気の影響もあってかなり冷え込んだ朝になりましたが、大勢のボランティアが東の浜海浜公園に集まりました。受け付けを済ませると、「松ぼっくり」と「落枝」を拾い集めて、その後に松葉かきを行いました。

本年度からは、KPPは毎月実施することとされており、先月は、雪の影響で中止となりましたが、4月

から数えて今回で9回目となり、これまで、延べ1,700名を超えるボランティアによって保全活動が行われています。

今回、実施した箇所（約0.5ヘクタール）は、松葉や落枝が多くありましたが、額に汗がにじみ出て来るにしがたが、白い砂が林床一面に見えるようになり、すばらしい「白砂青松」の景観を見ることができるようになりました。

今回、ボランティア活動に参加して、虹の松原の景観が地元唐津市民をはじめとして多くの方の支えによって維持されていると感じました。

当署としては、今後も「虹の松原再生・保全」にしっかりと取り組んでいくこととしています。

虹の松原で 「除伐体験」 を開催

【佐賀森林管理署】

令和4年12月10日、虹の松原国有林（唐津市）において、クロマツが過密林となっている箇所を対象に除伐体験を開催しました。このイベント開催にあたっては、NPO法人唐津環境防災推進機構KANNEの協力の下参加の呼びかけをお願いしたところ、唐津南高校から9名、また、

本年は宮城県から名取市の海岸で「震災で失った松林の再生活動」を行っている、公益財団法人オイスカが任命した海岸林リーダーの高校生、大学生の4名が参加し、各引率者、スタッフ合わせて総勢27名が心地よい汗を流しました。

はじめに、白石健二署長から「虹の松原は、特別名勝天然記念物として白砂青松が全国的にも有名ですが、海岸防災林として玄界灘から吹く潮風を防ぎ、市民生活を守る、保安林として大きな役割を果たしています。本日の除伐作業は、クロマツ林を健全な森に育てていくために重要な作業です。このような作業を続けていくことが、永続的に虹の松原がその役割を果たしていくことに繋がります。



職員によるデモンストレーション



参加者による除伐体験

す」と挨拶を述べました。

つづいて、当署職員より、除伐作業の目的について説明を行った後、作業のデモンストレーションを実施しました。その後、唐津南高校生と宮城県の高校生と大学生が一緒になって3班に分かれ、手鋸を使って協力しながら除伐作業を行いました。

はじめは、将来大きく育てる木の選木とその周辺の伐採木を決めることが難しい様子でしたが、当署職員からアドバイスを受けながら2時間程除伐作業を体験しました。立木伐採を初めて行った参加者からは、伐倒後の達成感から安堵の声が上がりました。

今回の除伐体験が、宮城県と佐賀県の生徒達の交流のきっかけとなっ

て、今後の活動に生かされることを期待するとともに、当署としても引き続き保全管理に取り組んでいきます。



宮城県からの参加者との交流も含めて集合写真

次世代の屋久島の森林・林業を守り育てる森林の体験、活動

【屋久島森林管理署】

令和4年12月7日に、町内の安房

保育園生19名を対象として、屋久島町船行の鍋山国有林で鹿児島県木育インストラクター「ウッドシヨップ木心里」による木育教室（森林・林業守り育てる森林の体験）が開催されました。

当日は、請負事業者の協力を得て、立木の伐倒作業の見学や極積みされた木の色・形・模様・香りの観察などを行いました。

現場で作業されている方からは、毎日の作業内容を分かりやすく説明して頂くとともに、現場で活躍されている林業女子による巧みな林業機械の運転操作も見学できました。

屋久島森林管理署の瀬高孝男森林技術指導官からは、毎日、作業で使



伐倒作業を見学する園児と保護者の皆さん

用している高性能林業機械の役割やシカの食害対策等を写真で分かりやすく説明しました。園児からの「大きなシカが来てもシカネットの中に入れないの？」との質問には、「大きくてもしつかりネットを取り付けているから諦めて行ってしまおうんだよ」と答えました。最後に、林道を歩き、海の見える見晴らしの良い場所へ移動しながら、周囲の木の名前を教えたり、既に伐倒された切株の見学、森には水を蓄える重要な役割があること、動物たちが多く生活できる住み家であることなどをインストラクターから説明していただきました。今回の木育教室では、丸太加工された木材製品の製材所見学と植樹を検討されているそうです。

新任の労働基準監督官と合同勉強会を開催

【長崎森林管理署】

令和4年12月8日 大村市の萱瀬国有林において、長崎及び世保労働基準監督署に勤務する新任の労働基準監督官5名とOJTとして長崎署の若手職員3名が参加し、木材の伐採搬出等の現場見学と安全衛生についての勉強会を行

いました。勉強会では、高木署長が各作業毎に手順や高性能林業機械の働きについて解説し、それに対し、長崎労働基準署の堀尾安全衛生課長が各作業について、安衛則などの法令に照らし合わせ、チェックポイントをあげて指導が行われました。

参加者は、労働安全衛生規則や安全衛生特別教育規程に着目してチェンソーによる伐倒、かかり木処理、プロセッサ作業、フォワーダ運材などを見学し、理解を深めることができました。

参加した新任の労働基準監督官は、初めて見る伐木・造材等の作業に興味津々で、特に切り株や周辺の状況



監督員に指名された若手職員による事業概要の説明



初めて見るプロセッサによる造材作業



切り株から伐倒状況をシミュレーション

【北薩森林管理署】
収穫調査等の実施については近年、技術の進展が著しく今後の発展にも期待できるリモートセンシング技術を活用した最新技術の開発が活発になってきています。

リモートセンシング 最新技術の 現地検討会

林業は他の産業と比べ格段に災害の発生率が高く、ケガとは切っても切れない関係にあります。今回の合同勉強会を通じ、改めて労働災害について学び、危険についてより深く理解することが、安全に業務を進める第一歩であると学びました。

一方で長崎署の職員は、請負事業者等へ発注者の立場から安全指導する際、日常的な何気ない作業のどこにどのような危険が潜んでいるのか、危険を排除するための対策と、各種規則や規制との関連などをより具体的に学ぶことが出来ました。

令和4年12月8日、当署ではこの最新技術を習得するため鹿児島県さつま町の大平国有林において、当署職員17名と宮崎森林管理署都城支署職員3名の20名により現地検討会を開催しました。

最初に佐藤敏郎署長より「新しい林業に向けた最新技術を学べる良い機会に」との開会のあいさつに続き、「高精度GNSSの活用」「都城支署の取組の紹介」「獣害ネットの杭抜き機の紹介」「mapryアプリ機能説明及びデモ」の4項目について実践を交えて説明しました。

最初に「高精度GNSSの活用」では先に九州森林管理局で開催された業務研修（ドローン）に参加した松井涼太森林整備官補による、GNSS（衛星測位システム）器機の使用実例と位置情報による森林資源解析などに活用できることなどの説明を行いました。

次に都城支署の高城森林事務所坂本徹也森林官より、先日開催された「森林・林業の技術交流発表大会」で優秀賞を受賞した全天候カメラ（360度カメラ）の活用などの取組の紹介を受けました。

午後からは阿久根森林事務所川畑勇二森林官による獣害防止ネットの撤去や補修に有効な「杭抜き機」2種類を紹介し、それぞれ実際に使用して体験しました。

最後に株式会社マプリーが開発したmapryアプリ機能の説明と実演を行いました。mapryはLiDAR搭載のスマートフォンやタブレットにより高精度な3次元データの取込・解析、野帳の集計などの業務利用が可能なアプリで立木の胸高直径の測定や標準地を設定、路網の縦横断の計測、極積の丸太検知などの実演や説明を受けました。



現地検討会の状況



スマートホンのアプリによる実演



タブレットのアプリによる実演



落合 陸男さん

私は山育ちを誇りとするひとりです。

昭和三、四十年代の山は多くの人々の生活を潤し、人と共に山は躍動をしていたように思います。

国有林には当時の営林署職員と共に多くの林業従事者が奥山へと入植し、ひと集落が形成され黄色い声も飛び交う日常の生活が営まれていたのです。

私は、その奥山の地元住民としてその人々と触れ合うなかで、大自然の恵みを受けながら少年期をすごしたことが、今もなお心に深く刻み込まれています。

山の中から夕暮れのエントツの煙があがり始めたころ、カズラを道具としたターザン遊びなどに興じたあとの疲れた体で谷間のキンマ道を手づたいに帰路につくことも。

地区では、椎茸栽培や植林事業などで収入を得ていました。特に椎茸栽培は大きな収入源でした。原木の立つ山奥での現地栽培で行

山に想う 温故知新

われ採取した椎茸は籠の乾燥小屋まで数十キロの山道を背負って運ぶという体力勝負の大仕事でした。最盛期ともなると父親は一晚中火をたいての乾燥作業もあり寝食忘れての多忙を極めるのです。私たちも春と秋の時期には全員かり出され背に竹カゴをかついで山へと登っていたものです。

また、山の頂き、大パノラマに大きな草払い鎌で苗木の除草作業。炎天下に腰に小さい水筒をひとつで汗を流す姿は蟻よりも小さく、大自然と格闘する人が織りなす山の光景でした。

そんな奥山にも近代化の波は打ち寄せ、電気が来たのです。ランブが御用済みとなり、炭焼き小屋も廃屋と化し、家の中にはテレビ、冷蔵庫、洗濯機がどっかりと置かれました。

それと共に国有林関係者も少しずつ離れていき、多くの幼馴染みもひとり、またひとりと山はさびしくなっていきました。もちろん椎茸栽培も人からリヤカー、単

車、耕運機、自動車へと、まさに日進月歩を目の当たりにした思いでした。

以来、山は大きく変わりました。まず人がいないのです。それに残念なことは手入れが届かず台風での流木の被害は大きな課題になっています。

今、レクリエーションや森林浴、企業などによる植林活動などで山への復興が他人事のように行われていますが、生活が営まれていた消滅したあの集落が帰って来ることはあるのでしょうか。ひとつ光を見るのが、若い人の「山師」という職種への取組があること。環境問題にしても、生活感のある人と山との触れ合いのなかにこそ大事に育まれていくものであって、次代を担う若い世代から「山師」という声が聞かれることに新しい息吹を感じるのです。このような存在が環境への大きな架け橋として躍動することに大きな期待をしたいものです。

(熊本県多良木町在住)



矢部に勤務しているときに、天主山に出かけて、ブラシ状の白い花を見てなんだろうと思っただのが初めての観察でした。

その後、図鑑で鋸歯の基部が密腺になっていることを知り、蜜腺を確認したときに感激したことを思い出します。

その後イヌザクラやミヤマザクラの密腺が鋸歯の最下部に同様にあることを知り、同定の基本となっています。

花は小さい白い花が総状花序につき、雄しべが花弁よりも長いことから目立ち、遠くから見るとブラシのように見えます。

古里の鹿児島から、何かは分

からないが、初めて幹一杯に白い花が咲いた何だろうと尋ねられました。デジガメ写真をメールで送っていただき調べたところ、この花でした。密腺を確認して同定しました。

ウワミズザクラがウワミズザクラに変化した。昔亀甲で占いをを行うとき、この材の上面に溝を掘り使ったことから名付けられました

ウワミズザクラがウワミズザクラに変化した。昔亀甲で占いをを行うとき、この材の上面に溝を掘り使ったことから名付けられました

森林インストラクター

安楽 行雄



1月下旬、10年に一度の最強寒波により九州でも各地で大雪となり、特に1月25日は九州各地の高速道路が通行止めになるなど各公共交通機関でも大きな影響を受けました。職員の皆様でも、通勤が難しくなったりして大変な思いをされた方も多かったのではないかと思います。▼大雪といえ、当局のHPの一番最初に「小花之江河の冬」の写真を掲載している。恥ずかしながら、小花之江河（こはなのえごう）を当方は知らなかったため、調べてみました。小花之江河は屋久島の中心部に位置し、花之江河とともに日本最南端の高層湿原であり、土壌は強酸性で、一面に生育しているミズゴケの中からコケスミレなどが咲くそうです。▼これまでには私は屋久島に2回行ったことはあるが、「縄文杉」で満足していません。次の屋久島に行く機会があったら、是非とも小花之江河や宮ノ浦岳に行ってみたくなりました。ただ、HPの写真のような寒い日に登るのは危険なので、暖かい日に行きたいと思えます。

【あ】